

## 私のすすめるこの1冊

村上 登司文（附属図書館長・教育学科 教授）

### 『日本帝国と大韓民国に仕えた官僚の回想』

イムムナン

任文桓（著）

イムムナン  
著者の任文桓は、1907年に韓国の中西部にある中清南道で生まれます。この本は1975年に『愛と民族』という書名で出版された回想録の復刻です。

朝鮮人の任は、16歳の時に貧しい郷里を出て、日本帝国の首都東京を目指して日本に渡ります。郷里の先輩を訪ねて京都駅に降り立ち、今出川の北にある先輩の部屋に滞在する間に関東大震災が起こり、東京に行くのをあきらめます。任は京都で工場職工、牛乳配達夫、人力車夫として朝から晩まで働きます。運良く、同志社中学校の編入学試験に合格します。同志社中学卒業後、岡山にある第六高等学校に入学しますが、これほどまで一生懸命に働き、頑張る苦学生がいるのかという状況を読み進めるうちに、その奮闘ぶりを応援している自分に気がきます。

この旧制中学校と旧制高等学校の回想では、生徒たちの日常生活が描かれており、当時の学校の情景描写は新鮮な内容です。猛勉強の末に東京帝国大学法学部に入学し、卒業の前年に高等文官行政科試験に合格します。本書のあとがきに「その勉学の全期間を通じて、力ある日本人の助力と、学友たちのいささかも分けへだてのない友情とが、私に賦与され続けたことは、私の人間形成にとってまことに貴重であった」との言葉に救われる気がしました。

日本の内地（本土）には朝鮮人に優しい日本人がいましたが、外地（朝鮮）では朝鮮民衆を搾取・支配する警察や官僚組織、移住してきた日本人がいました。そうした朝鮮で、任は朝鮮民衆の利益を守る

ことを胸に秘めて、1935年から終戦の1945年まで、朝鮮総督府下で行政官として勤務します。それは、反日本帝国と糾弾されていつ落ちるかもしれない深淵の上で、「曲芸師の空中ブランコ乗り」を演じていたと、任は具体的に記述します。

1945年の朝鮮独立後は、総督府の官僚であったという経歴により一転して、「親日民族反逆者」として追い落とされますが、1948年には行政手腕を買われて李承晩政権の官僚となります。任は、朝鮮戦争（1950～1953）を辛うじて生き延びることができました。日本人は自国の戦争被害の話には多く接しますが、朝鮮戦争時の朝鮮で何が起こっていたか、朝鮮の人々の体験談は全く聞いていません。北朝鮮軍侵攻時のソウル市の様子、その支配地域からの脱出劇、朝鮮戦争がもたらした惨状を読者は具体的に知ることになります。

日本は敗戦後、朝鮮半島における分断国家の成立や朝鮮戦争を対岸の出来事と、他人事のように眺めてきました。金大中政権以降、日韓の文化交流や、相互の観光客訪問など人的交流が進みました。しかし、現在の日韓関係は、これ以上悪くならないと言われるほどにこじれており、対韓国感情と対日本感情が改善する方向がまだ見えていません。任は、「地理的位置から言っても密接な関係を絶つことのできない両国の民族への要望を、提言しないではいられなかった」（1975年記）と記しています。

京都教育大学  
それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

### 第14回を実施しました

12月13日(木)、附属図書館1階のリフレッシュラウンジにて「それはかなう夢講座」が実施されました。第14回は、産業技術科の原田信一先生による「ものづくり学習に活かせる！おもしろエネルギー実験」をテーマに、お話しがありました。定員30名を越える参加があり、多くの学生や教職員で賑わいました。



<第14回の様子>

おにぎり2個  
&お茶付き！  
先着30名

### 第15回のお知らせ

【日時】2019年1月31日(木) 12:10~12:40

【場所】附属図書館1階 リフレッシュラウンジ

【講師】小山宏之(体育学科准教授) 【テーマ】速く走ることを科学的に考えてみませんか

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会  
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館



### わくわく kyo2 ライブラリー-2018 読書キャンペーン

図書館で借りた本の紹介をして、そったくんグッズや図書カードをもらっちゃおう！

実施期間：2018年10月1日(月)～2019年2月1日(金)

借りた本のポップ(A6サイズ、イラストやキャッチコピーなど)や、紹介文(400字～600字程度)を提出してください。全作品の中から優秀なものには館長賞(図書カード)が授与されます。選考からもれた方には、参加賞を進呈します。

【対象者】本学学生(学部学生、大学院生、科目等履修生、研究生等)

詳細は、館内ポスターや附属図書館HPなど各種お知らせをご覧ください。



### 日曜開館を試行しています

試験期間前の日曜日(2月3日)を9時から17時まで開館しています。試験勉強などにぜひご利用ください！

### 春季休業に伴う 長期貸出について

学部生：1月28日(月)～3月29日(金)

院生・教職員：1月12日(土)～3月15日(金)

【返却期限日】4月15日(月)

※卒業・修了予定者は3月11日(月)まで

### リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！

※リクエストは随時受け付けています

2019年1月の投票期間は

1月16日(水)～1月31日(木)です。

※図書館1階渡り廊下・北館2階研修セミナー室前に展示しています。読みたい本に投票しよう！次回は3月の予定です。

### 学修相談カウンター

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？



## 第23回教科書展を開催しました（企画展示室にて）

2018年11月15日(木)から12月27日(木)にかけて、第23回教科書展「平和教育と教科書～教科書で戦争と平和を考える～」を開催し、学生・教職員・一般利用者など多数の方にご来場いただきました。

会期中は藤陵祭や図書館内でのイベントなどもあり、多数の方が来場されました。



こんな資料を展示しました  
第二次世界大戦中の教科書・指導書 44点  
戦後の教科書・副読本 16点  
戦後の国語教科書 43点  
教科書に掲載された平和文学等 35点

会場では、村上登司文教授（教育学科・平和教育学・現図書館長）が作成・ナレーションをつとめたスライドを上映し、「展示内容が理解しやすかった」との感想をいただきました。



学生が執筆した平和教材の解説文も掲示しました。



＜アンケートより一部抜粋＞

「自分の親、お世話になった先生方の頃の教科書を手に取り、改めて教育の大切さ・深さを知った」（50代・教育関係者）  
「とても見応えがあった。実際に手にとって読むことで、『平和』について改めて考える契機となった」（20代・本学学生）  
ご協力ありがとうございました！

戦時中の教科書なども手にとって読むことができていました。



該当箇所がわかりやすいよう目印をつけました。



## 企画展示室（北館1階）

＜開催します＞

◆e-pro 京教木の実 その'魅力' 展

1月10日（木）～1月23日（水）

◆化石ミニ博物館（中等理科教育Ⅲ：中野先生）

1月17日（木）～1月24日（木）

＜報告＞

KYOKYO SDGs

-私達ができること（井谷先生）

2018年11月21日（水）～

12月27日（木）にかけて開催

されました。



## 児童書コーナー（南館1階）

幼児教育科主催  
えほんのもり

学生による絵本のよみきかせ

★1月7日（月）14:30～14:45

『七ふくじんとおしょうがつ』他

★1月21日（月）14:30～14:45

『14ひきのもちつき』他



↑  
学生作のチラシ

今月の絵本カード（学生作）

『だるまさんが』

作：かがくいひろし

出版社：ブロンズ新社

※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。



## 教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品（12・1月予定）

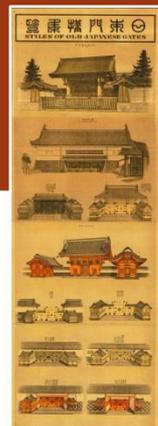
「日本門構集覧

(STYLES OF OLD JAPANESE GATES)」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。

教育資料館まなびの森ミュージアム

<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>



京都教育大学紀要(大学発行の学術雑誌)に掲載された論文を、執筆した先生本人にご紹介いただくコーナーです。

# 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **榊原 禎宏**(教育学科 教授)

## 学校教員経験者の私立大学教職員へのリクルートメントに関する事例研究 — 「大学における教員養成」の現在—

榊原 禎宏・浅田 昇平・松村 千鶴  
京都教育大学紀要, 2018, No. 133, pp. 197-211.

いま教員になるべく大学で学んでいるみなさんが、どのように感じているかはわかりませんが、戦後の日本で「大学における教員養成」は、呪文のように繰り返されてきた原則の一つです。これはとくに小学校教員の養成にとって重要とされ、戦前の師範学校のあり方に対する反省、反動として強調されてきました。

つまり、基本的に中等教育段階に位置づけられていた師範学校では、「師範タイプ」と後年指摘されるような教員像が求められ、順良・信愛・威重の態度が重視されていました。軍隊的色彩が強く、国家主義に従順だった師範学校は、戦後の教育改革期に厳しく批判され、学術的すなわち科学的、批判的な態度と能力が得られる教員養成の場として、新たに大学が求められたのです。ゼミナール活動や卒業論文・制作のほか、大学生活の中に学生の自治会活動などが組み込まれているのは、こうした歴史ゆえにほかなりません。

その一方、おおよそ 1990 年代以降に強まってきた「実践的指導力の基礎」を獲得させるという考えは、当初の「大学における教員養成」とは異なる論理で大学での学修に影響を与えています。そこで大学に登用されるようになってきているのが、小・中学校ほか学校での教員経験を有する人たちであり、講義、演習、論文指導のほか、教育実習や学生ボランティア、教員採用試験への支援と、幅広く業務を担っています。

こうした教員経験者はどのような教職キャリアを持ち、どんな立場でいかなる役割を担っているのか。またそれは大学の組織的特徴といかに関連しているのか、について 124 人の事例に即して明らかにしようとしたのが、本論文です。大学において未来の教員を育てる上での眼目は何か、このことは大学教員の力量に何を求めるものか、そして教員の養成と採用、そして研修はいかに繋がるのかという問いを広げ、深めようと試みています。「すぐに役立つ」ものではありませんが、大学という場のこれからを考える上でも、読んでもらえれば嬉しく思います。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 133 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>でもご覧ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2019年1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1/7 授業再開  
1/19-1/20 センター試験  
1/26-27 センター追試験

2019年2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

2/4-2/8 後期末試験  
2/25-2/26 前期入試

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード)

<http://toshok2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.220 (2019年1月号)

発行日:平成31年1月4日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

